

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済情勢は、東日本大震災の影響に伴い、期初は自動車産業を含め経済活動は停滞いたしました。官民一体となった復興により回復の兆しが見られるようになりました。しかしながら電力供給不足、円高・株安の長期化、北米や欧州での金融不安等があり、引き続き先行きの不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの主要な取引先となります自動車産業におきましては、国内では期後半にかけ挽回生産など回復傾向にありますが、震災の影響が大きく生産台数は前年同期に比べ減少いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、販売数量減少により14,806百万円(前年同期比3.1%減)となりました。利益面におきましては、受注量の減少により、営業利益は205百万円(前年同期比68.0%減)、経常利益は160百万円(前年同期比71.3%減)、四半期純利益は91百万円(前年同期比73.9%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

資産の部については、流動資産が13,407百万円となり、前連結会計年度末に比べ460百万円の増加となりました。固定資産は8,139百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,059百万円の増加となりました。

負債の部については、流動負債が10,365百万円となり、前連結会計年度末に比べ897百万円の増加となりました。固定負債は6,304百万円となり、前連結会計年度末に比べ675百万円の増加となりました。

純資産の部については、株主資本が4,702百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円の増加となりました。その他の包括利益累計額は△14百万円となり、前連結会計年度末に比べ76百万円の減少となりました。

少数株主持分は、189百万円となり、前連結会計年度末に比べ5百万円の増加となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前第2四半期連結累計期間末に比べ806百万円増加し、4,717百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は、1,131百万円となりました。

これは主に、売上債権の増加118百万円、長期前払費用の増加249百万円、仕入債務の減少140百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、613百万円となりました。

これは主に、有形固定資産の増加631百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は、1,606百万円となりました。

これは主に、長期借入金の増加1,170百万円、短期借入金の増加510百万円等の資金の増加によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は138百万円であります。